

屋代高が全国3位

屋代高校の1年生4人は、ヤマト運輸などが主催する「高校生経営セミナー」で、長野新幹線の金沢延伸後に長野を訪れる観光客と宅急便利用の増加を目的とした事業計画を立案し、参加した全国10校の中で3位に入賞した。同社広報課によると、

新幹線延伸に伴う地元の危機感を取り上げた着眼点と、かわいいゆるキャラ“を用いた大人にはない発想力が評価されたという。

高校生経営セミナー 年後に収益が出せる地は、ヤマト運輸が社会 域生活支援の企画を買献活動の一環とし テーマに、高校生たちが、経済教育団体「公 が約半年のセミナー期益社団法人ジュニア・ 間中に、同社のネットアチーブメント日本」 ワークとサービスを活と共同で毎年開いてい 用した事業計画を立てる。7回目の今年は3 位だ。

着眼点と発想力 評価

新幹線後 観光客と宅配便の事業



立案した事業計画を発表する屋代高校1年の4人（2月2日、東京都）

初参加の屋代高校からは越川兼道君、吉野郁さん、瀧澤佳菜さん、滝澤希江さん有志4人が臨んだ。長野市中心市街地での聞き取り調査やヤマト運輸の社員と重ねた10回ほどのグループワークなどを経て、「牛に引かれて善光寺参り」の伝説にちなんだオリジナルの牛のキャラクタールを使った土産品の

カタログ配布や、観光客がバーコード付きのシールを土産品に貼るとヤマト運輸が後日配送してくれるプランを考えた。

4人は、2月上旬に東京のヤマト運輸本社で開かれた審査会で事業計画を発表。瀧澤さんは「何げなく利用しているシステムやサービスの後ろには、利益や利用者について考える人たちがいることを知った。動くのは大変だと感じた」と感想。越川君は「協力してくれたヤマトの人たちは動きがきびきびしていて、学生とは違う視点を持っていた。いい経験ができた」と、充実した表情を見せていた。